

ほほえましき 体育大会 (記事参照)

洛友會の秋

京都市左京區吉田
京都大学工学部
電気科教室内
洛友會

母の日に 寄せて

昭二九 飯塚啓吾

やがて晩春の淋しさを送り木々の若葉に、苗代の早苗に、薰風を追つて燕の飛び交う初夏を迎えようとしています。私はこの軽快そのもの、ような燕を見る度に毎度時を同じうして飛来する故郷の我が家の軒に巢を作る燕が思い出されます。營々として土を運んで巧妙な巣を作る。そしてやがて雛が生れ、親燕が食物を運ぶ毎に一瞬子燕たちは黄色い口を大きく開いてざわめき立つ、親燕は順位をあやまらず一羽を与えて早々として餌を求めて飛び去る。雛は一齊に口を開ぢて親燕が帰るまで沈黙を続ける。こうした當みが一夏続けられて初秋の清澄な大気と共に見送られながら子燕たちが飛び去る。私がまだ幼少の頃この燕の生態を無我夢中で凝視していましたと私のそばへ母が近寄つて来て「あの燕を御覧、親といふものはたゞ一筋に子供を立派に育てる事のみに一生懸命ですのですよ。そしてやがて子燕が一人前になつて飛び去つて行く後ろ姿を見て充分満足しているのですよ。それが本当の愛と言ふものです。燕のお母さんは何も子燕が大きくなつたら自分に親孝行をして貰おうとは思つて居りません。又老後を見て貰おうとは思つて居りません。若し人間がそんな事を子供に要求するなら動物にも劣ります。この春秋が流れて私も人並みの分別を持つつていると、うぬぼれる程に成りの春秋が流れています。こんな会話を思い出すのであります。

こうした会話を聞いてから十年余りの春秋が流れています。こんな会話を思い出すのであります。

鳥取、島根両県下は山が多く、耕地は一〇%位、車窓に展開する日本

長しましたが、今若しこの話を立場を引つ繰り返して考えて見れば、もし我々人間の子が「お母さんお父さん有難うございました。では左様なら」では子供の側が今度は燕以下に落ちて丁うこと気に気付きました。燕の子は母の恩に対してもう感じて居るか判りませんが、私たちは人間であり、万物の靈長としての人の子として燕の子と異なる処がなければなりません。私ども子供はその年令に応じて、その境遇に準じて、能力に呼応して孝養の道を歩み終生我が子を薰育愛撫する母の鴻恩に応えなければなりません。母が子を愛する心を以て心として、その母を愛する事だと思います。これは言ふべきして行き難きものであります。しかし、少くともこの理念だけは失いたくないと思います。人口に膾炙した歌人啄木の「たゞむれに母を背負ひてのあまり軽きに泣きて三歩歩まず」の歌が思い出されて感慨無量なものができます。偉大なる母の慈愛を礼讃しつゝ筆を搦めます。

山陰の旅

松田長三郎

今回、照明学会副会長であり、中国支部創設の功労者でもある真田安夫さん（中国電力取締役、昭和二年卒）からお招きを受けて学会創立四十周年、支部創立五周年記念行事の一環として全国に魁けて、同地の講演や電力事情を見せて貰つた。旅は落ちついた都會、松平不昧公以来などと言うと大袈裟ですが、急行出雲号では大阪から五時間半で鳥取に着くという快適な汽車の旅、尤も米子までに百二十幾つかのトンネルがあるそうですから、その電化が待望せられている。

伝説、神話に富んだ國、出雲松江は落ちついた都會、松平不昧公以来のお茶所役所へ行つても先づ大砂丘、幅三一四キロ、延々十六キロに及ぶ景觀は正に天下一品、こゝでも觀光と開發利用とのデレンマがあります。但し温泉近くに最近ウラン鉱脈の発見は大きなホーブ、話題を投げている。

鳥取市中に温泉が湧くという事は知る人も少なかろう。郊外の有名な山と海のは展望素晴らしく、あのスロープは夙にスキーヤーには著名であるが、更に、樹木原に新しいキンブの設営に國も県も地元も大いに留意して居られる。開發の先駆は先づ給電である。真田さんが見える現地に詳細な説明を聞いた。宗教的にも教育的にも意義あるこの所に将来日本を背負つて立つ青少年のための清純なキンブがやがて出来上るものと期待せられている。

伝説、神話に富んだ國、出雲松江は落ちついた都會、松平不昧公以来の茶所役所へ行つても先づ大砂丘、幅三一四キロ、延々十六キロに及ぶ景觀は正に天下一品、こゝでも觀光と開發利用とのデレンマがあります。但し温泉近くに最近ウラン鉱脈の発見は大きなホーブ、話題を投げている。

鳥取の静寂、小泉八雲の旧居を訪れては神国日本の精神、風物に心酔した明治中期の落ちついた生活を偲び服。松江城の豪宕、不昧公の別墅菅原庵の静寂、小泉八雲の旧居を訪れては神国日本の精神、風物に心酔した明治中期の落ちついた生活を偲び鄉愁を覚えた。往昔の懷古を乗り越えて明日へ進まねばならぬ。去る三月新装成った中国電力松江支店の近代化設備を誇る偉容が明日への力強い。旅途中、真田さん、木曾さん、その他各地の方々の御厚意を心から深謝

洛友会東京支部總会

五月晴れと言いたいが霖雨シトシトと降る五月十四日午後五時より電氣協会館五階ホールにて催された。出席者は別記の如く百廿三名の盛会で、本部よりは鳥養会長、阿部、山村幹事が出席された。

先づ異支部長の開会挨拶に次いで

三十年度決算報告並に卅一年度予算

を審議し、満場拍手裡に可決承認さ

れた。

次いで鳥養会長は人間の肉体的な發達は卅五、六才を頂点とするが、智的發達は七十才まで上昇するものである事、又各國の生活水準は米国を第一とするが、我国も東洋においては優位にあり、中共と雖も今後十

年にして、やつと我が現状に至るので、我国としては益々貿易を振興して生活水準の向上を図らねばならぬとの有益なお話があり、阿部先生は就職並に入学状況について、又山村幹事は洛友会として教室の懇親会に援助協力する事とし、本年度の電気教室主任大久保教授、電子教室主任清野教授と懇談して、学生の平易な常識涵養のため文化講座の設置や、運動を盛んにするため運動器具の整備、運動会を盛大にし心身の鍛錬に寄与するため何分の寄付をしたい旨を報告し、尚松田教授の停年退職について会員の協力を頼うと共に来る十二月一日(土)の行事には参加して頂きたい旨を述べた。

その後、橋本真吉氏のユーモアに満ちた米欧视察談があり、新入会員十二名の自己紹介があつて、園遊会式のパフォーマンスがなごやかに開かれた。交川副支部長の閉会の辭に次いで、鳥養会長の発唱で洛友会萬歳を、佐藤穂徳氏の發唱にて鳥養会長萬歳を齊唱して会を閉ぢた。

閉会後、明治会は東電科学研究所にて、大正会は会場地下室にて、又

所に会合が催され、夜の更けるのも忘れて互いに懐旧談に花を咲かせた。

(正木幹事記)

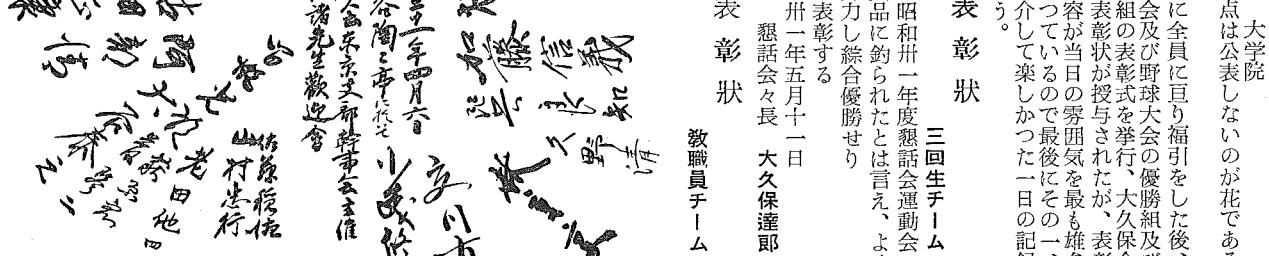
出席者名簿

| | | |
|-----|--------|---------|
| 昭 | 大 | 明 |
| 一六五 | 四三 | 三七 |
| 一四三 | 三〇九八六五 | 多田耕象 |
| 二一 | 四三 | 三九岡村金藏 |
| 平井 | 二五 | 四〇宮井誠吉 |
| 西本 | 二三 | 四三佐藤稔徳 |
| 高崎 | 二一 | 四四佐伯政之助 |
| 相木 | 二二 | 三七將吉 |
| 岩尾 | 二一 | 久高正隆 |
| 黒川 | 一四 | 高見正隆 |
| 平山 | 一四 | 高見祥平 |
| 西田 | 一五 | 松本義治 |
| 山本 | 一五 | 長島秀雄 |
| 武田 | 一三 | 佐藤照彦 |
| 相木 | 一三 | 岡崎秀雄 |
| 喜久 | 一四 | 中澤井関 |
| 安三 | 一三 | 太田大滝 |
| 弘文 | 一三 | 本佐 |
| 文雄 | 一三 | 佐佐木 |
| 眞一郎 | 一三 | 高島正明 |
| 昌一 | 一三 | 小林 |
| 遂一 | 一三 | 武田 |
| 善雄 | 一三 | 鈴木 |
| 真吉 | 一三 | 明子 |
| 峰吉 | 一三 | 新 |
| 正一郎 | 一三 | 佐藤 |
| 良知 | 一三 | 佐伯 |
| 謙 | 一三 | 政之助 |
| 捷吾 | 一三 | 三七佐伯 |
| 三六 | 一三 | 三九佐伯 |
| 一夫 | 一三 | 三九佐伯 |
| 高崎 | 一三 | 四一佐伯 |
| 飯村 | 一三 | 四三佐伯 |
| 高島 | 一三 | 四四佐伯 |
| 高崎 | 一三 | 四四佐伯 |
| 浜崎 | 一三 | 四四佐伯 |
| 広瀬 | 一三 | 四四佐伯 |
| 高崎 | 一三 | 四四佐伯 |
| 久長 | 一三 | 四四佐伯 |
| 松本 | 一三 | 四四佐伯 |
| 江本 | 一三 | 四四佐伯 |
| 伝三郎 | 一三 | 四四佐伯 |
| 弘 | 一三 | 四四佐伯 |
| 松本 | 一三 | 四四佐伯 |
| 佐々木 | 一三 | 四四佐伯 |
| 正木 | 一三 | 四四佐伯 |
| 一男 | 一三 | 四四佐伯 |
| 進 | 一三 | 四四佐伯 |
| 豊田 | 一三 | 四四佐伯 |
| 日野 | 一三 | 四四佐伯 |
| 高崎 | 一三 | 四四佐伯 |
| 小穴 | 一三 | 四四佐伯 |
| 正一郎 | 一三 | 四四佐伯 |
| 晴夫 | 一三 | 四四佐伯 |
| 行賢 | 一三 | 四四佐伯 |
| 村上 | 一三 | 四四佐伯 |
| 木 | 一三 | 四四佐伯 |
| 祐 | 一三 | 四四佐伯 |
| 岩元 | 一三 | 四四佐伯 |
| 正木 | 一三 | 四四佐伯 |
| 佐々木 | 一三 | 四四佐伯 |
| 知巳 | 一三 | 四四佐伯 |
| 橋田 | 一三 | 四四佐伯 |
| 準二郎 | 一三 | 四四佐伯 |

| | | | | | | | | |
|-------|----|----|-----|----|----|----|----|----|
| 電気工学科 | 三一 | 二九 | 二八新 | 二八 | 二七 | 二六 | 二五 | 二〇 |
| 津田 | 三〇 | 二九 | 二九 | 二八 | 二七 | 二六 | 二五 | 二〇 |
| 楢田 | 三〇 | 二九 | 二九 | 二九 | 二七 | 二六 | 二五 | 二〇 |
| 高橋 | 三〇 | 二九 | 二九 | 二九 | 二七 | 二六 | 二五 | 二〇 |
| 白杉 | 三〇 | 二九 | 二九 | 二九 | 二九 | 二九 | 二九 | 二九 |
| 多田 | 三〇 | 二九 | 二九 | 二九 | 二九 | 二九 | 二九 | 二九 |
| 渡部 | 三〇 | 二九 | 二九 | 二九 | 二九 | 二九 | 二九 | 二九 |
| 室賀 | 三〇 | 二九 | 二九 | 二九 | 二九 | 二九 | 二九 | 二九 |
| 青木 | 三〇 | 二九 | 二九 | 二九 | 二九 | 二九 | 二九 | 二九 |
| 信雄 | 三〇 | 二九 | 二九 | 二九 | 二九 | 二九 | 二九 | 二九 |
| 西岡 | 三〇 | 二九 | 二九 | 二九 | 二九 | 二九 | 二九 | 二九 |
| 萩原 | 三〇 | 二九 | 二九 | 二九 | 二九 | 二九 | 二九 | 二九 |
| 櫻井 | 三〇 | 二九 | 二九 | 二九 | 二九 | 二九 | 二九 | 二九 |
| 猪川 | 三〇 | 二九 | 二九 | 二九 | 二九 | 二九 | 二九 | 二九 |
| 道生 | 三〇 | 二九 | 二九 | 二九 | 二九 | 二九 | 二九 | 二九 |
| 重三 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 |
| 直三 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 |
| 渡部 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 |
| 室賀 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 |
| 高橋 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 |
| 石割慶 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 |
| 四郎 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 |
| 和 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 |
| 加納 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 |
| 白杉 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 |
| 多田 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 |
| 渡部 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 |
| 青木 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 |
| 信雄 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 |
| 西岡 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 |
| 萩原 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 |
| 櫻井 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 |
| 猪川 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 |
| 道生 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 |
| 重三 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 |
| 直三 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 | 三一 |

| | | | | | | | | | |
|--|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 夜來の雨もカラリと晴れ渡つた五 月十一日、新緑の樹木を渡る風も薰 る上賀茂神社境内広場において新人 会員の歓迎を兼ね卅一年度懇親会 季大会として大運動会が開催された。 特に今年は電子工学科において当 科においては分校より初めて実質的 に学生廿五名を迎えた最初の記念す べき年に当り、教室も新生の意氣に 満ちた米歐考察談があり、新入会員 十二名の自己紹介があつて、園遊会 式のパフォーマンスがなごやかに開か れた。交川副支部長の閉会の辭に次 いで、鳥養会長の発唱で洛友会萬歳 を、佐藤穂徳氏の發唱にて鳥養会長 萬歳を齊唱して会を閉ぢた。 | 三位 | 職員 | 八八点 | 三位 | 職員 | 八八点 | 三位 | 職員 | 八八点 |
| 成績は次の如し。 | 一位 | 教職員 | 八八点 | 二位 | 教職員 | 八八点 | 三位 | 教職員 | 八八点 |
| 一位 | 教職員 | 八八点 | 二位 | 教職員 | 八八点 | 三位 | 教職員 | 八八点 | |
| 三位 | 三回生 | 八八点 | 三位 | 三回生 | 八八点 | 三位 | 三回生 | 八八点 | |
| 三位 | 三回生 | 八八点 | 三位 | 三回生 | 八八点 | 三位 | 三回生 | 八八点 | |
| 三位 | 三回生 | 八八点 | 三位 | 三回生 | 八八点 | 三位 | 三回生 | 八八点 | |
| 三位 | 三回生 | 八八点 | 三位 | 三回生 | 八八点 | 三位 | 三回生 | 八八点 | |
| 三位 | 三回生 | 八八点 | 三位 | 三回生 | 八八点 | 三位 | 三回生 | 八八点 | |
| 三位 | 三回生 | 八八点 | 三位 | 三回生 | 八八点 | 三位 | 三回生 | 八八点 | |
| 三位 | 三回生 | 八八点 | 三位 | 三回生 | 八八点 | 三位 | 三回生 | 八八点 | |
| 三位 | 三回生 | 八八点 | 三位 | 三回生 | 八八点 | 三位 | 三回生 | 八八点 | |
| 三位 | 三回生 | 八八点 | 三位 | 三回生 | 八八点 | 三位 | 三回生 | 八八点 | |

| | | |
|---|----|-----|
| 物語つている。かくて五 時半、半ば実力、半ば心臓 が物を言い昨年は幾ら守 つても三アワットを取り た日の猛練習の甲斐あ つて、今年は武闘はず も夢見たにしなかつた事 件となつた。野球大会の 成績は次の如し。 | 四位 | 大学院 |
| 依つて表彰する。 | 四位 | 大学院 |
| 昭和卅一年五月十一日 | 三位 | 大学院 |
| 懇親会長 大久保達郎 | 三位 | 大学院 |



右のチームは昭和卅一年度懇話会野球大会に於て相手チームの相次ぐ失策により好機に恵まれ上加茂の守の天祐神助を得て優勝する事が出来たので之れを賞する

尚、右の表彰状にある問題(?)の賞品は山村幹事殿の御配慮により落友会より寄贈せられたものである事

を附記して満腔の謝意を表する次第である。

(追記) 懇話会では右の大会の成績に鑑み、野球・テニス等に自信を持ち先

輩各位から他の流試合の申込みを歓迎している。我れと思わん方々はチームを編成の上申込まれよ。

懇話会文化講座

二六会三十周年記念クラス会

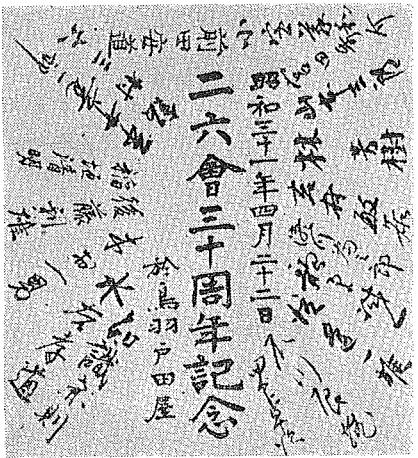
大正十五年(一九二六年、第二六回)卒業の二六会では予て計画を進めて来た三十周年記念クラス会を四月廿二日国立公園伊勢志摩に於て開かれた。参加者は東京方面を始め九州方面に亘り寄せ書人名の如く十八名(出席率六〇%)の盛会であつた。

先づ近畿日鉄終点宇治山田駅前の料亭大喜店に参々伍々午前中に参集、三十年振りに再会の挨拶する者あり、集合場所を忘れて出發した珍談やら種々談笑中に会食。午後は貸切バスにて伊勢神宮参拝、内宮神楽殿前にて一同記念撮影後二見浦を廻遊、車中案内娘の伊勢音頭を聞きながら鳥羽浦に至り旅館戸田屋に入つた。

夜の懇親会では美女の唄を聞き踊りを見ながら、水入らずの気楽さから日頃の訓練の腕を發揮して酒の進むにつれ唄に踊りに余技が百出(後日の脅迫材料にピントを向ける者あり)時の過ぎるのを忘れ、さては麻雀に囲碁、談笑等と夜も短く自分の寝室を忘れるユーモアもあつた。

翌廿三日は奥志摩探勝を計画、朝九時に鳥羽を発ち鵜方町にて電車を降り英虞湾(一名真珠湾)のリアス式海岸の景を眺めながら浜島町の国際觀光旅館南風荘に向つた。折悪しく雨天であつたので附近の散策は出来なかつたが鳥羽浦の内海的景色と浜島の大洋の景色との良きコントラストを愛でることが出た。旅館にては新鮮な海草や魚を珍味し午後陸路を帰る者(小風雨中、舟を恐るゝ者あり)数名と別れ遊覧船にて英虞湾を横断、途中富士真珠工場を見学、養殖貞珠の工程を詳細に調査後、賢島に上り志摩御光ホテルにて最後の食事を共にした。

かくて二日間に亘り寝食行動を共にしたので互いに三十年昔の氣分に変り氣易く息子の入学、就職、娘の嫁入り(孫を持つ者もあるが、さすがに孫の話は出なかつた)の話から教室での実験室の話、テニスの話等と尽きる事なきまゝ五年後の会合を約し三十余時間に亘る行動を閉ぢた。



懇話会では古くから学生の一般教養を高めるために種々の催しを行つて來たが今年は大久保会長の下に新しい構想で学生のための行事を計画している。その一つとして文化講座を設け各方面的専門家を招き、毎週一回講演をお願いする事になつた。講師の選定等は總て学生が主体となつて活動して居り、第一回は五月八日工業部桜田教授の「織維よりもやま話」第二回は五月十五日理学部宮地教授の「猿の社会性」について、それぞれ興味あるお話を伺つた。

五月廿三日には文學部桑原教授の「フランス文學について」の講があり予定である。今後も文學・医学その他各方面に亘つて講座が続けられることになつてゐる。懇話会は財源に乏しきため講師への謝礼については申上げます。尚、先輩諸兄にも講演を依頼する事があると思われるが、その節は宜しく願上げます。

会費領收

昭和廿八年度
五月十五日より

到着の分

| 昭和廿九年度 | 五月十五日まで | 到着の分 |
|--------|---------|------|
| 大 | 一四 | 松本 |
| 一一四 | 一四 | 松本 |
| 一四三 | 一七 | 細江 |
| 六五 | 二五 | 水野 |
| 四 | 二八 | 美間 |
| 佐藤 | 横川 | 敬之 |
| 佐藤 | 二八 | 京次 |
| 江岡 | 一七 | 勝巳 |
| 野田 | 二八 | 寛徳 |
| 田中 | 二八 | 正章 |
| 正圓祐 | 一七 | 軫治 |
| 章 | 一七 | 福井 |
| 大 | 一七 | 常勝 |
| 一一四 | 一七 | 山口 |
| 四 | 一七 | 高雪 |

(田中記)

園山四段 S 22

4/4

2 等級

勝率

等級

東京支部趣味のサークル

園基部春季大手合せ

五月三日 十時より二十時
(場所) 港区芝田村町一丁目三

美松書房三階園基部

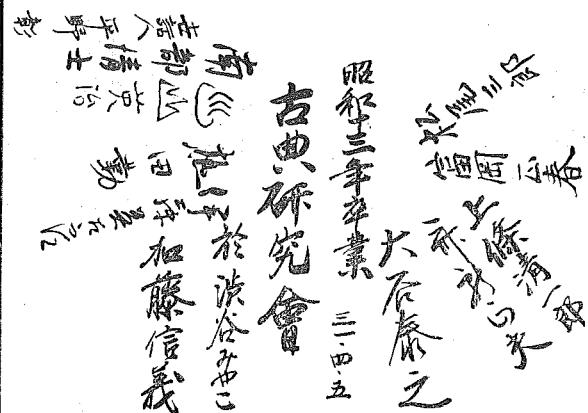
(出席者) 松本氏、井上氏

早退。日本棋院武田先生(二段)の指導園基がありました。

昭和廿九年度(第十三回)

昭和廿九年度(第十三回)

常勝



昭和十三年卒業古文研究會發足
(大谷記)
 去る四月五日東京で學會が開催された
 機会に加藤先生をお迎えして、東京在住
 者のクラス会を開催、急な案内にも拘ら
 ず会する者十名、娘が出席者の持參した
 珍しい古典資料が問題となり、直ちにこ
 れに関する研究会に切換え、熱心且つ愉
 快に研究討論を続け春宵一刻を楽しん
 だ。尚お本研究会は今後も機会ある毎に
 開く事とし、他クラスの方でも古典資料
 参考の場合は出席を歓迎します。

| | |
|----------|---|
| 大昭和三十一年度 | 二二二二二二二二二二二二二一七 |
| | 水野勝己 水野敏夫 水野德吉 有馬敬次 有馬孝一 尾崎弘三 尾崎春彦 尾崎嘉明 井畠忠勝 井畠常勝 福井昭 |

| | |
|----|-------------|
| 昭一 | 一一一 |
| | 一四三一〇八六五四二四 |

| | |
|----------------|------------------------------|
| 細山村森坂西野田松鶴谷江口岡 | 中本山 |
| | 佐藤元忠 佐藤安順 佐藤武軒 佐藤治郎 |

| | |
|-----------|-----------------------------|
| 七章雪祐行久三二夫 | 忠 |
| | 佐藤佐野 佐藤岡 佐藤泰吉 佐藤慶一 |

| | |
|-----------|--------------------|
| 正高圓元忠安順武軒 | 二忠 |
| | 伊藤政 伊藤芳徳 伊藤清 |

| | |
|-----------|----------------------|
| 七章雪祐行久三二夫 | 三二 |
| | 佐藤泰吉 佐藤慶一 佐藤純雄 |

| | |
|-----------|----------------------|
| 正高圓元忠安順武軒 | 一忠 |
| | 佐藤佐野 佐藤泰吉 佐藤慶一 |

| | |
|-----------|----------------------|
| 正高圓元忠安順武軒 | 二忠 |
| | 佐藤佐野 佐藤泰吉 佐藤慶一 |

| | |
|-----------|----------------------|
| 正高圓元忠安順武軒 | 三二 |
| | 佐藤佐野 佐藤泰吉 佐藤慶一 |

| | |
|-----------|----------------------|
| 正高圓元忠安順武軒 | 一忠 |
| | 佐藤佐野 佐藤泰吉 佐藤慶一 |

| | |
|-----------|----------------------|
| 正高圓元忠安順武軒 | 二忠 |
| | 佐藤佐野 佐藤泰吉 佐藤慶一 |

| | |
|-----------|----------------------|
| 正高圓元忠安順武軒 | 三二 |
| | 佐藤佐野 佐藤泰吉 佐藤慶一 |

| | |
|-----------|----------------------|
| 正高圓元忠安順武軒 | 一忠 |
| | 佐藤佐野 佐藤泰吉 佐藤慶一 |

| | |
|-----------|----------------------|
| 正高圓元忠安順武軒 | 二忠 |
| | 佐藤佐野 佐藤泰吉 佐藤慶一 |

| | |
|-----------|----------------------|
| 正高圓元忠安順武軒 | 三二 |
| | 佐藤佐野 佐藤泰吉 佐藤慶一 |

| | |
|-----------|----------------------|
| 正高圓元忠安順武軒 | 一忠 |
| | 佐藤佐野 佐藤泰吉 佐藤慶一 |

| | |
|-----------|----------------------|
| 正高圓元忠安順武軒 | 二忠 |
| | 佐藤佐野 佐藤泰吉 佐藤慶一 |

| | |
|-----------|----------------------|
| 正高圓元忠安順武軒 | 三二 |
| | 佐藤佐野 佐藤泰吉 佐藤慶一 |

| | |
|-----------|----------------------|
| 正高圓元忠安順武軒 | 一忠 |
| | 佐藤佐野 佐藤泰吉 佐藤慶一 |

| | |
|-----------|----------------------|
| 正高圓元忠安順武軒 | 二忠 |
| | 佐藤佐野 佐藤泰吉 佐藤慶一 |

| | |
|-----------|----------------------|
| 正高圓元忠安順武軒 | 三二 |
| | 佐藤佐野 佐藤泰吉 佐藤慶一 |

| | |
|-----------|----------------------|
| 正高圓元忠安順武軒 | 一忠 |
| | 佐藤佐野 佐藤泰吉 佐藤慶一 |

| | |
|-----------|----------------------|
| 正高圓元忠安順武軒 | 二忠 |
| | 佐藤佐野 佐藤泰吉 佐藤慶一 |

| | |
|-----------|----------------------|
| 正高圓元忠安順武軒 | 三二 |
| | 佐藤佐野 佐藤泰吉 佐藤慶一 |

| | |
|-----------|----------------------|
| 正高圓元忠安順武軒 | 一忠 |
| | 佐藤佐野 佐藤泰吉 佐藤慶一 |

| | |
|-----------|----------------------|
| 正高圓元忠安順武軒 | 二忠 |
| | 佐藤佐野 佐藤泰吉 佐藤慶一 |

| | |
|-----------|----------------------|
| 正高圓元忠安順武軒 | 三二 |
| | 佐藤佐野 佐藤泰吉 佐藤慶一 |

| | |
|-----------|----------------------|
| 正高圓元忠安順武軒 | 一忠 |
| | 佐藤佐野 佐藤泰吉 佐藤慶一 |

| | |
|-----------|----------------------|
| 正高圓元忠安順武軒 | 二忠 |
| | 佐藤佐野 佐藤泰吉 佐藤慶一 |

| | |
|-----------|----------------------|
| 正高圓元忠安順武軒 | 三二 |
| | 佐藤佐野 佐藤泰吉 佐藤慶一 |

| | |
|-----------|----------------------|
| 正高圓元忠安順武軒 | 一忠 |
| | 佐藤佐野 佐藤泰吉 佐藤慶一 |

| | |
|-----------|----------------------|
| 正高圓元忠安順武軒 | 二忠 |
| | 佐藤佐野 佐藤泰吉 佐藤慶一 |

| | |
|-----------|----------------------|
| 正高圓元忠安順武軒 | 三二 |
| | 佐藤佐野 佐藤泰吉 佐藤慶一 |

| | |
|-----------|----------------------|
| 正高圓元忠安順武軒 | 一忠 |
| | 佐藤佐野 佐藤泰吉 佐藤慶一 |

| | |
|-----------|----------------------|
| 正高圓元忠安順武軒 | 二忠 |
| | 佐藤佐野 佐藤泰吉 佐藤慶一 |

| | |
|-----------|----------------------|
| 正高圓元忠安順武軒 | 三二 |
| | 佐藤佐野 佐藤泰吉 佐藤慶一 |

| | |
|-----------|----------------------|
| 正高圓元忠安順武軒 | 一忠 |
| | 佐藤佐野 佐藤泰吉 佐藤慶一 |

| | |
|-----------|----------------------|
| 正高圓元忠安順武軒 | 二忠 |
| | 佐藤佐野 佐藤泰吉 佐藤慶一 |

| | |
|-----------|----------------------|
| 正高圓元忠安順武軒 | 三二 |
| | 佐藤佐野 佐藤泰吉 佐藤慶一 |

| | |
|-----------|----------------------|
| 正高圓元忠安順武軒 | 一忠 |
| | 佐藤佐野 佐藤泰吉 佐藤慶一 |

| | |
|-----------|----------------------|
| 正高圓元忠安順武軒 | 二忠 |
| | 佐藤佐野 佐藤泰吉 佐藤慶一 |

| | |
|-----------|----------------------|
| 正高圓元忠安順武軒 | 三二 |
| | 佐藤佐野 佐藤泰吉 佐藤慶一 |

| | |
|-----------|----------------------|
| 正高圓元忠安順武軒 | 一忠 |
| | 佐藤佐野 佐藤泰吉 佐藤慶一 |

| | |
|-----------|----------------------|
| 正高圓元忠安順武軒 | 二忠 |
| | 佐藤佐野 佐藤泰吉 佐藤慶一 |

| | |
|-----------|----------------------|
| 正高圓元忠安順武軒 | 三二 |
| | 佐藤佐野 佐藤泰吉 佐藤慶一 |

| | |
|-----------|----------------------|
| 正高圓元忠安順武軒 | 一忠 |
| | 佐藤佐野 佐藤泰吉 佐藤慶一 |

| | |
|-----------|----------------------|
| 正高圓元忠安順武軒 | 二忠 |
| | 佐藤佐野 佐藤泰吉 佐藤慶一 |

| | |
|-----------|----------------------|
| 正高圓元忠安順武軒 | 三二 |
| | 佐藤佐野 佐藤泰吉 佐藤慶一 |

| | |
|-----------|----------------------|
| 正高圓元忠安順武軒 | 一忠 |
| | 佐藤佐野 佐藤泰吉 佐藤慶一 |

| | |
|-----------|----------------------|
| 正高圓元忠安順武軒 | 二忠 |
| | 佐藤佐野 佐藤泰吉 佐藤慶一 |

| | |
|-----------|----------------------|
| 正高圓元忠安順武軒 | 三二 |
| | 佐藤佐野 佐藤泰吉 佐藤慶一 |

| | |
|-----------|----------------------|
| 正高圓元忠安順武軒 | 一忠 |
| | 佐藤佐野 佐藤泰吉 佐藤慶一 |

| | |
|-----------|----------------------|
| 正高圓元忠安順武軒 | 二忠 |
| | 佐藤佐野 佐藤泰吉 佐藤慶一 |

| | |
|-----------|----------------------|
| 正高圓元忠安順武軒 | 三二 |
| | 佐藤佐野 佐藤泰吉 佐藤慶一 |

| | |
|-----------|----------------------|
| 正高圓元忠安順武軒 | 一忠 |
| | 佐藤佐野 佐藤泰吉 佐藤慶一 |

| | |
|-----------|----------------------|
| 正高圓元忠安順武軒 | 二忠 |
| | 佐藤佐野 佐藤泰吉 佐藤慶一 |

| | |
|-----------|----------------------|
| 正高圓元忠安順武軒 | 三二 |
| | 佐藤佐野 佐藤泰吉 佐藤慶一 |

| | |
|-----------|----------------------|
| 正高圓元忠安順武軒 | 一忠 |
| | 佐藤佐野 佐藤泰吉 佐藤慶一 |